# 特設第四十六機関砲隊部隊略歴

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭一九、八、二五 | 編成完結 |
| | 於　市川市野重第十八連隊 |
| | 任務概要 |
| 一九、九、三〇 | 横浜出港 |
| 一〇、九 | 父島上陸 |
| | 小笠原矢田隷下に入り、同日小笠原方面海軍特別根據地隊司令官の指揮に入り防空戦斗に従事 |
| 二〇、四、三〇 | 小笠原矢田指揮下に復帰、前任務の続行 |
| 二、二七 | 復員人員調査 |
| | 編成時　八十五名 |
| | 復員時　七十三名 |





国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独立歩兵第二七五大隊部隊略歴

（謄第六六八一部隊）

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭一九、二、三五 | 編成 |
| | 編成地　金沢本部及第一中隊 |
| | 富山第二中隊　MG |
| | 長野第三中隊　iA |
| 一九、二、下旬 | 金沢に於て編成完結 |
| 二、二五 | 横浜出港 |
| 二、三一 | 小笠原諸島兄島到着 |
| | 在父島立花少将の指揮下に入り、終戦に至るまで兄島守備 |
| | 編成装備並指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 本部　1、2、3、MG（2小）　iA（TiA迫） |
| | 編成時は在硫黄島矢田長の指揮に属し小笠原到着と同時に在父島田長立花少将の指揮下に入る。 |
| | 硫黄島玉砕と共に在父島師団長立花中将の指揮下に属せらる。 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 参加せる主要なる作戦<br>兄島守備<br>陣地構築の外大なる戦斗なし<br>終戦より帰還迄の行動<br>終戦直後兄島清掃を終り、父島に終結、復員業務に服し、尚米軍の指示に基づき主として大村の清掃に従事 |
| 昭二〇、一二、<br>二、一、六 | 米軍輸送船に依り、広島県大竹港に上陸<br>大隊長は残留を命ぜられ、<br>浦賀上陸 |





国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独立歩兵第二七四大隊部隊略歴

（臨第一四二一三部隊）

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭一九、一一、一九 | 編成着手 |
| 一一、二三 | 編成完結 |
| | 編成地　千葉県北葛飾郡柏町柏中学校内 |
| | 数日後富士演舎に汽車輸送し教育訓練中 |
| 一二、中旬 | 東京から命令があり直ちに横浜に汽車輸送、横浜にて乗船すべく待機、数日後の |
| 一二、二六 | 横浜港出発 |
| 一二、三一 | 父島上陸、直ちに母島地区警備隊長（連隊長）の指揮下に入る。 |
| 二〇、一、一〇 | 母島に上陸、母島警備に任ず、 |
| | 終戦まで変化なし |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 大隊本部（本部、経理室、医務室） |
| | 第一、第二、第三各中隊（一ケ中隊は三ケ小隊） |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭二〇、二、中旬 | 小銃、軽機関銃、擲弾筒<br>機関銃中隊一（二ヶ小隊）機関銃四<br>歩兵砲中隊一（二ヶ小隊）大隊砲二<br>父島到着まで東京（詳細失念）の命に従い、父島到着と同時に母島地区警備隊長（政木均大佐）の指揮下に入り、そのまま終戦となる。<br>参加せる主要なる作戦<br>母島警備に終始せり<br>終戦より帰還迄の行動<br>終戦となるも部隊は母島に在りて終戦前の配置のまま母島地区隊長の命により道路補修作業に全員が任じた。<br>連合軍のLSTにより部隊は二回に分れて送還さる（横須賀） |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独立歩兵第二七六大隊部隊略歴

（膳第一四一七一部隊）

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 自一九、二、一九<br>至二一 | 編成完結 |
| | 編成地　和歌山市　中部第二四部隊に於て、 |
| 一二、二三 | 横浜出帆、 |
| 二七 | 父島上陸 |
| 二〇、一、六 | 父島発 |
| 一、七 | 母島着 |
| 一、九 | 本部は何島に位置し、母島列島の警備 |
| 一二、二一 | 母島発帰還 |
| 一三、三五 | 浦賀上陸 |
| 一二、二八 | 復員 |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 編成（島嶼守備用）　装備 |
| | 本部 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 一般中隊　三ヶ中隊――一ヶ中隊――Lgp. 8R　小銃全員<br>三小四分<br>機関銃中隊――MG 二小8　BiA 一小2<br>歩兵砲中隊――RiA 一小2　TiA 一小2<br>約七〇〇名 |
| | 指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 中部二四部隊編成　同部隊長の指揮下に入る。 |
| 昭一九、一二、三 | 横浜出帆と同時に膳部隊長（父島警備隊長）の指揮下に入り、 |
| 二〇、一、七 | 母島到着後は母島警備隊長（独立連隊長）の指揮下に入る |
| | 終戦となる。 |
| | 参加せる主要なる作戦 |
| | 輸送中父島に於て空襲、艦砲射撃をうけ、母島及向島守備中　空襲爆撃をうけたるも、特に戦斗なし。 |
| | 終戦より帰還迄の行動 |
| 二〇、八、一五 | 終戦となり |
| 九、三〇 | 空警備態勢のまま主力は向島に。 |
| | 一部は母島本部にありしも、 |







国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | |
|---|---|
| 九、一三<br>一三、上旬<br>一三、二八 | 母島に集結し、同地の道路作業清掃等に任じ、<br>逐次内地帰還となり<br>復員完結す |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 混成第一聯隊部隊略歴

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭一九、六、三〇 | 母島に於て編成完結<br>部隊は当時母島に在りし第四十二、第四十五要塞歩兵隊を基幹とし内地よりの若干の補充要員を加へ編成す。<br>部隊長陸軍大佐政木均にして歩兵二ヶ大隊砲兵一ヶ中隊、通信一ヶ中隊より成る。 |
| 二〇、三、二七 | 硫黄島部隊の玉砕に伴い、父島滞留中の独立速砲第九、十、十一、十二、大隊の一部（計三四一名）の配属を受く。<br>任務<br>小笠原兵団たる第百九師団の隷下に在りて母島守備を命ぜらる。<br>別に独立大隊三ヶ大隊（第二七四、第二七六、第三〇三大隊）を配属せらる<br>母島地区隊となり終戦迄同島を守備す |





一四内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独混第十連隊連隊本部部隊略歴

（備第一七五八四部隊（隆二五五六））

| 年月日 | 概要 |
|---|---|
| | 師団命令により、連隊は一一、〇〇頃空爆下をマンガン山に向い、折田出発、夜襲準備中、敵迫撃砲弾の集中を受け、附近密林内に移動準備を完了し夜襲に参加す。 |
| 七、二四 | 本夜襲に於て村松、大竹曹長以下十五名生死不明、 |
| 七、二四 | 連隊本部附近は、艦砲、迫撃及び飛行機の攻撃を受け戦死傷者二十数名の損害を受く、 |
| 七、二五 | 一三、〇〇頃工兵小隊、芥沢小尉以下十五、六名予備隊等の人員を集め荒井准尉以下十七、八名を以て山本中隊（山本大尉）を編成、陣地を増強せしも、夕刻に至り迫撃砲の集中を受け約半数の損害を受く。 |
| 七、二八 | 宇津木中尉残存者を合せ指揮し、前方の敵方一線陣地に突入、三上准尉以下十数名戦死、 |
| 八、三 | 連隊長本田台戦斗司令所附近に於いて戦死す<br>以降、宇都木中尉は29p 佐藤参謀の指揮下に入り中隊長として活躍中 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | |
|---|---|
| 昭九、六 | |
| 横要 | 戦死 |





国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 混成第十連隊部隊略歴

| 年月日 | 概要 |
|---|---|
| | 当連隊は一ヶ大隊を派遣して同島の守備に任じ、主力は箱屋より松山間の地区を守備していたが、上陸戦斗開始後は本田台にある混成旅団長の指揮下に入り、 |
| 二二 | 以来激戦を続け |
| 二六 | 迄に殆んど全員同地区で戦死した。 |
| | 連隊本部は竹田に位置して居つたが、 |
| 七、二一 | 上陸戦斗開始後主力をマンガン山地区に転進する様命ぜられ直ちに出発したが、空襲激烈のため、 |
| 二二 | 朝漸く的野附近に到着して旅団長の指揮下に入り、 |
| | 爾後、本田台附近で戦斗 |
| 二四 | 迄に、その大部は戦死した。 |
| | 第二大隊（長、竹内大尉） |
| | 当大隊は箱屋湾より太郎港に亘る間を守備して居つたが、 |
| 七、二一 | 米軍上陸開始と共にマンガン山に転進を命ぜられ、 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 七、二二 | マンガン山北側高地に陣地を占領して同地を守備した。 |
| 二四 | 近迫した米軍に反撃を行い大隊長以下多数戦死者を出し、当日迄約三分の二兵員を失った。 |
| 二五 | 総攻撃の際には広瀬中尉が残存者を集結して夜襲したが、激戦のため大損害を受け殆んど大部は |
| 二六 | 夕迄に戦死した。 |
| 二八 | 生存者は拝田に集結を命ぜられ、爾後師団集成部隊として戦斗した。当時集結した兵力は馬場中将以下約六十名に過ぎなかった。 |
| 七、二一 | 第三大隊（長、谷島大尉）大隊は足米崎より松山、長島に亘る間を守備していたが米軍の上陸開始と共に拝田に集結を命ぜられ、第七、八中隊の各一小隊を現在地に残置し、主力は拝田に集結して陣地構築に従事中、総反撃参加のため「マンガン」山高地を確保すべく当夜猛烈なる艦砲弾を冒し、米軍に相当の損害を与えつつ同高地に進出した大隊の損害もまた甚だしく、 |
| 七、二四 | には生存者約二十名となったので、大隊長は船田、松山に残置した第七決死小隊、第八森川小隊を招致し、部下の士気を鼓舞激励しつつ困難なる戦斗を |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | |
|---|---|
| | 続行して殆んど部下を失い、同日夕刻以后連隊本部に在って連隊長を補佐していたが、 |
| 二八 | 本田台師団戦斗司令所附近に於て戦死した。 |
| | 尓後北部地区戦斗のため残存者約百名は |
| 七、二九 | 抹田に集結し |
| 八、四 | になり各所に於て激戦を交え、平塚、比村の間に於て殆んど戦死した。 |
| | 大隊砲小隊（長、高田少尉） |
| 七、二二 | マンガン山に到着 |
| 二四 | 本田台師団戦斗司令所附近に陣地を変換しマンガン山に進出した敵戦車を破壊した。当時の戦死は約十名であった。 |
| 七、三一 | 平塚に転進し該地附近の戦斗で小隊長以下七名戦死し、尓余の生存者は高野野戦病院と共に戦斗したが、密林戦になってから大部分戦死した。 |
| | 野砲大隊（長、矢島少佐） |
| | 二ヶ中隊は海岸正面を射撃し得る如く富岡台肥後台上に一中隊は戎岡岬正面を射撃し得る本田台に陣地を占領していたが、 |
| 七、二一 | 上陸戦斗に際しては主力で見晴岬に来攻する米軍を本田台の砲兵で米軍の上陸点を猛射し多大の損害を与えたが、然し間もなく米軍の艦砲射撃を受け、逐次火砲を破壊せられ、 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 | 要 |
| --- | --- | --- |
| 七、二一 | 夕迄に大隊長以下幹部の大部は戦死した。<br>本田台の10Hは全部破壊せられたが、富岡台の火砲はこれを品川に集結し、 | |
| 七、二八 | より抹田、平塚に陣地を変換した。 | |
| 八、二 | から始まつた平塚附近の戦斗に於て（10H二門、4.四門）は前進して来る米軍戦車を射撃し、激戦を続けたが、遂に | |
| 五 | までに火砲も破壊せられ多数兵員も戦死した為生存者は高原山部隊に編入され、爾後密林戦に入つた。<br>平塚附近の生存者は約八十名であつた。<br>通信中隊（長　斉藤少尉）<br>戦斗間に於ける本部各大隊間の通信連絡に任じて居つたので中隊は集結し得ず各出先部隊と運命を共にし、その大部は、 | |
| 七、二八 | までに戦死した。 | |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独混第十連隊第二大隊部隊略歴

| 年月日 | 概要 |
|---|---|
| 七、二一 | 敵朝井村正面に上陸開始するや大隊は折田出発、熾烈なる敵空爆裏及艦砲裏下を的野山を経てマンガン山に推進す。<br>全夜々間攻撃に於て、第四中隊長今井大尉以下十二名戦死、<br>又同中隊、第二小隊長小岩少尉は頭部に、指揮班長明台准尉は脚部に負傷、<br>其の他負傷者多数を出し、爾後第四中隊は会田少尉指揮す。 |
| 七、二三 | 本田台前面の敵優勢なる為、大隊は本田台に西側高地に推進、該地に陣地を占領す。 |
| 七、二四 | 当日に於ける敵の攻撃は猛烈を極め第一小隊長小林少尉は戦死し、多門見習士官以下過半数未帰還、<br>空爆艦砲射撃の援護の下に本田台に向い攻撃し来る敵部隊に対し、大隊長は残存兵力を直接指揮し熾烈なる砲爆撃下を勇猛陣頭に立ち猛反撃を敢行する。<br>この際、敵の空爆に依り大隊長戦死する。<br>該反撃戦に於て大隊長外梅原准尉、小俣、三井両曹長以下六名戦死す。<br>春田山方面、転進命令に基き |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 七、三一<br>八、八 | 馬場中尉は機関銃中隊両長車曹の指揮する小一ヶ分隊を長田見習士官は四、五中隊残存兵力明堂准尉以下三十名を指揮し、春田山を経て平塚に転進す。<br>インパパの陣地に於て一〇、〇〇頃（十時）敵戦車部隊の攻撃を受け、之れと交戦、馬場中尉以下十数名の戦死傷を出せり、残存兵力は、佐藤参謀指揮下に高原――又木山に向い転進以後密林戦に入る。 |





国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独混十連隊ヲ三大隊部隊略歴

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 七、二一 | 上陸開始せる敵に対し総反撃の実施すべく、松田出発、マンガン山高地に向う。 |
| 二八 | 当時迫撃砲を有する約一大隊の敵と猛戦、敵に相当の損害を与えたるも宇野、出口各中隊長を始め、約二〇〇名の損害を受く。<br>大隊長谷島大尉は、本田台師団戦斗司令所附近に於て戦死す |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独混十連隊才三歩兵砲中隊部隊略歴

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 敵上陸を開始するや、マンガン山前進命令により拆田出発、同地に向う。 |
| 七、二二 | マンガン山道路頂上に到着、総攻撃準備を為し、師団戦斗司令所に向う陣地附近に於て敵戦車と交戦 |
| 七、二六 | 本田台に転進、敵と交戦、篠原伍長以下数名戦死。 |
| | 追次、春田山――平塚に転進、残存者十数、他部隊に合し戦斗続行 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 独混十連隊野砲大隊部隊略歴

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 大隊本部<br>本田台に観測所を設け矢島少佐射撃指揮をとる。<br>七中隊<br>高瀬中尉の一ヶ小隊（野砲二門）は、富岡、高野少尉の指揮する一ヶ小隊（野砲二門）は、品川台へ、推名少尉の指揮する一ヶ小隊（野砲二門）警備隊裏の台上に、夫々陣地占領し、明石湾に上陸を企図する敵に火力配置。<br>八中隊<br>本田台に陣地占領、見晴岬、浅井村附近に上陸を企図する敵に対し火力配置<br>六九中隊<br>星出中尉の指揮する一ヶ小隊（二門）は富岡に陣地占領、浜辺少尉の指揮する一ヶ小隊（二門）は本田台六八中隊に相並で陣地占領、見晴岬、朝井村に上陸を企図する敵に対し火力配置 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 第五二師団通信隊部隊略歴

（柏第四六六二部隊）

| 年月日 | 概要 |
|---|---|
| 昭一八、九、三 | 第五十二師通、動員下令（金沢東部第五十四部隊にて） |
| 九、九 | 動員完結 |
| 一〇、二 | 軍令陸甲により編成改正下令 |
| 二、二一 | 編成改正完結 |
| 一三、二四 | 宇品港出発 |
| 一九、一、五 | トラック島上陸　同島警備に従事 |
| 自一九、二、一七、至二〇、八、二五 | 第一次より第九次迄トラック島附近の戦斗に参加す |
| 二〇、一、一〇 | 内地帰還（部隊主力）の為トラック島出発、 |
| 一、二二 | 浦賀上陸 |
| 二五 | 完結 |
| 一八、二、一三 | 編成地　石川県金沢市に於て編成 |
| | 編成装備並指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 部隊本部　有線小隊二、無線隊一、器材班一 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | |
|---|---|
| | 小銃三八式騎銃九二式電話機九四式　三号用無線機　九六式五四線交換器（人員器材数異す） |
| | 指揮隷属　第五十二師団長隷下 |
| 自九、一、五 至三、一五 | 島嶼作戦の為、海上交通（内地及軍司令部失）断せられたる為、軍通信隊の一小隊（人員のみ器材携行しあらず）臨時編入、尚、暁部隊固定無線（船舶無線小隊）一小隊臨時編入す。（SOW固定無線器一携行） |
| | 大本営に連結の為、南洋庁郵便局の使用　SOOW送信器及受信機移譲の為、軍通信小隊使用、連絡にならしめたり。 |
| 自三、一七 至三、六 | 参加せる主要なる作戦（戦斗、警備、行軍、輸送） |
| | トラック島の警備 |
| 自三、一六 至三、三一 | 第一次トラック島附近の戦斗 |
| 自四、一 至五、一 | 第二次　〃 |
| 自五、二 至五、三一 | 第三次　〃　（死傷損耗）戦病死一。 |
| | 第四次　〃 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 自昭一九、六、一 至三〇 | 第五次トラック島附近の戦斗 |
| 自七、一一 至三一 | 第六次〃　参加　戦傷一（爆傷） |
| 自八、一一 至一二、三一 | 第七次〃 |
| 自一〇、一一 至二〇、六、三〇 | 第八次〃 |
| 自七、一 至八、二五 | 第九次〃 |
| | （補給） |
| | 出戦当時携行せし兵器、消耗品其の他内地より補給なし |
| | 一部師団より携行せし物のみ（若干補給ある程度） |
| | 通信の消耗品の補給は全くなし |
| | （衛生） |
| | 当時携行品のみにて補給なし |
| | 一部師団医部より医薬品の補給受く |
| | 終戦より帰還迄の行動 |
| | 終戦後は主として現地自活の為の生産に従事し、もつぱら一部米軍飛基地の |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

強化補給作業（工事）援助並に米軍兵舎の組立作業に従事せしむ
其の間船舶の関係により数次に亘り内地帰還せしむ、
兵器、器材、被服の整理（引渡）作業及運搬に従事する。
部隊の経歴中特異と認めらるる事項及歴代部隊長名
爆撃の激化及艦砲射撃等の被害を避け、且大本営との連絡確保のため、坑道式の通信所及発電所（50Km出力発電機）設備を完備
各島岐間の連絡の為、海底電話線の使用
部隊間の連絡として「マーシャル群島、ミレ島」（一〇七連隊間）二、〇〇〇Km以上3号無線機に依り連絡完了せし器材能力を特異とする。
歴代部隊なし



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 才五十二師団矢器勤務隊部隊略歴

（柏才四六六四部隊）

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭一八、九、中旬 | 編成完結 |
| | 編成地　石川県金沢市 |
| | 矢技技能の向上、一般戦斗力の鍛練 |
| 一九、一、下旬 | 宇品に於て暁天、辰砌の二連隊艦に分乗、横浜沖にて艀団に入り、一路トラック島に向け南下中 |
| 二、一七 | 暁天丸は潜水艦の為、辰砌丸は空爆の為め、何れも沈没、部隊は人員半減、機能の殆んど全部を失いしも |
| 一八 | トラック島夏島に上陸后、鋭意機能の恢復に努め、爾後終戦まで各守備隊を巡回、兵器修理、手投爆弾の製作、陣地の増強等に従事、 |
| 二〇、一二、六 | 浦賀上陸 |
| 八 | 復員完了 |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 長　少佐　一 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一八六

| | |
|---|---|
| 附 | 大尉 一 |
| 矢 | 中尉 二 |
| | 准尉 一 |
| 矢 | 〃 一 |
| 衛 | 伍長 一 |
| 下士官以下一一〇 | |
| 修理車 | 二 |
| 本部 | |
| 兵器班 | |
| 暨工班 | |
| 鞍工班 | |
| 火砲班 | |
| 自動車班 | |

長以下 一一七名 本部五ヶ班とす

師団直轄で業務上師団兵器部長と密接に連絡す

当隊は才一次には対ソ作戦の急遽時特設せられたが、後南方作戦のため改組せられ、編成も縮少せられた。

航海中乗船二隻共沈没 人員半減機能の大部を失つたが一ヶ年有余の間敵の



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 上陸作戦なく半減の状で任務を達成し得た。 |
| | 参加せる主要なる作戦（警備、戦斗、行軍、輸送） |
| | トラック群島夏島に上陸直前に |
| 昭一九、二、二七 | 午前二、三十分敵潜水艦の魚雷の攻撃を受け主力艦沈没（暁天丸） |
| | 死傷損耗　戦死四、負傷一 |
| | 補給　修理車に海浜上陸后一車　配当 |
| | 衛生　上陸直後デング熱に冒されるもの多かりしも間もなく終熄 |
| | パラチフス散発 |
| 二、一七 | 午前十一時大野中尉以下五十名果組の僚船辰丸空襲を受け爆沈 |
| | 死傷損耗　戦死四九　負傷一 |
| | 補給　人員　現地応召一、他より転属一の外補充なし |
| 二、一八 | 残存者　長以下六〇名夏島上陸後終戦迄同島守備の一部を担任し、矢器修理、補給、手投爆雷の製作従事 |
| | 死傷損耗　戦死一 |
| | 補給　上陸后内地よりの補給殆んどなく修理材料等海軍工作部より補給を受けた。 |

一八外



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

衛生　全期間バラック生活なりしも衛生状態比較的良し、

終戦より帰還迄の行動

終戦後は米軍接収のため諸準備に従事す。即ち兵器類の整備、陣地の接収、復旧、兵員の健康増進等に尊念す。

最後迄、所謂、抑留生活はなさず、寛大なる待遇を受く。

全員内地帰還の途につき、

二〇、一二、一　浦賀に上陸　上陸後掩護局宿舎に入り復員諸業務に従事

六　この間准尉南蔵を千葉業務部に派遣し功績調査書類其他所要書類一切を提出し、

八　復員完了、部隊を解散す

部隊経歴中特異と認めらるる事項　代部隊長官氏名

二船に乗組し当隊が二船共沈没し、約五十名が一時に海底に没し去り部隊の機能殆んど全壊したこと

内地との交通杜絶し、自給自足、恰も屯田兵の如き生活をしたこと

決戦用の米、酒二升を土中に埋蔵せる外は毎日甘藷作りの農耕、除草、除虫に従事、朝から晩迄甘藷一点張りの生活

備考

概要は逸しないと思うが、細部の数字等の記憶確実、且つ求めらるる所に答



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | |
|---|---|
| 概要 | へ御たが、甚だ心元ない次第ですが、参考資料が手元になく切に諒承をお願い致します。 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 第五十二師団圣理勤務部部隊略歴

（柏第四六七五部隊）

| 年月日 | 概要 |
|---|---|
| 昭六、二、 | 石川県金沢市にて部隊編成 |
| 二、二〇 | 編成完結 |
| 一九、一、 | 宇品港にて乗船 |
| 二、初 | トラック島に上陸 |
| | 終戦時迄同島に在りて警備につく |
| 二、一九 | 横須賀港に上陸 |
| 二〇 | 仝地に於いて部隊解散 |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| 編成 | 圣理部　衛生部　獣医部　本部　矢部 |
| 将校 | 一〇　二　一　一　一四名 |
| 下士官 | 二〇　三　一　五　二九名 |
| 矢 | 五〇　一五〇名 |
| 軍属 | 三名 |
| 備人（上陸後人員変更 | 約一〇〇〇名 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 装備 |
| | 現地自活に要する器具材料　内地携行資材転送途中沈没す |
| | 参加せる主要なる作戦 |
| | 輸送間乗船沈没　死者二名　爆撃による |
| | 警備中　死者一名　病死一名 |
| | 終戦より帰還迄の行動 |
| 昭二〇、八、一五 | 終戦 |
| 一三、 | 迄トラック島に於て米軍占領下に米軍の宿営設営並に道路補修作業（建築関係者並矢の一部）乗船時まで現地自活の作業続行 |
| | 部隊の経歴中特異と認めらるる事項　代部隊長官氏名 |
| | 現地自活作業中甘藷栽培の為、海軍と協力して二千町歩の柳水林の開こん並に漁猟、養鶏、養豚の食肉補給上相当効果ありたるものと認む。 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 才五十二師団野戦病院部隊略歴

（柏才四六七六部隊）

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭一八、一一、 | 金沢に於て編成され |
| 一二、 | 一部 |
| 一九、一、 | 本部、トラック島に向け出発、 |
| 一八、一二、末 | 一部 |
| 一九、三、五 | 本部、トラック島に上陸 |
| | 才一次乃至才九次の戦斗に参加し、終戦に至る。 |
| | 編成地　金沢 |
| 一八、二、留 | 編成 |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 金沢に於ては本部及び三ケ中隊に編成し、防疫給水班を隷属せしめあり、才五十二師団長の指揮隷属下にありトラック島上陸后は本院を夏島に分院を春島及秋島に療養所を水旺島、冬島、木旺島に、位置せしめ防疫給水部班は本部を春島に一部を水旺島に置き作戦に参加し終戦に到る。 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 終戦後は米国より高級食糧及薬品の贈与を受け生活も安楽となりたるのみならず何等の拘束もなく返つて優遇せられたり。 |
| 自一九、二、一七<br>至二〇、八、二五 | 参加せる主要なる作戦（警備、戦斗、行軍、輸送）<br>第一次乃至第九次の戦斗に参加す。 |
| 一八、一二、 | 出発せる一部は海上無事にトラック島に上陸せるも |
| 一九、一、 | 出発せる本部は海上に於て輸送船全部空襲及魚雷の攻撃を受け沈没せり。<br>死傷損耗　戦死並行方不明　約一九七名<br>補給　海軍病院（第四艦隊）より材料の補給をうく。<br>衛生　野戦病院に防疫給水班を待せ兵員約千名にして患者収容数は五百名乃至千五百名の間にありたり。 |
| | 終戦より帰還迄の行動 |
| | トラック島に於ける病院関係部隊に終戦時の態勢の侭数ヶ月を過したる後、一部づつ帰還をなし、 |
| 二一、二、末 | までに凡そ復員完了せるものの如し。 |
| | 病院長は残りの主力を率い |
| 二一、二中旬 | 復員船救護の為トラック島を出発し、ガム島に到着し、約旬日の後一部は患 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、
七、一〇
一二、

者護送につく、
病院長は患者護送についてグアム島出発
鹿児島上陸、復員し、
残り約十数名復員せるものの如し
部隊の至正中特異と認めらるる事項及正代部隊長官氏名
戦時中一人の栄養失調者も出さなかったこと
終戦後米軍より一番優遇を受けたこと（該地における他部隊に比して）
才一代　陸軍や医大佐　杉田秀馬（一代限り）
備考
右記載中の数字は記憶正確を欠くものである。



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 第五十二師団戦車隊部隊略歴

（柏第四六七二部隊）

| 年月日 | 概要 |
|---|---|
| 昭一八、二、一〇 | 戦車第二連隊において編成完結 |
| | 編成地　千葉県大久保戦車第二連隊に於いて |
| 一九、一、三〇 | 宇品港出港 |
| 二、一七 | 第一次トラック島附近の戦斗参加 |
| 二、一八 | |
| 一九 | トラック島夏島に上陸、警備戦斗参加 |
| 九、一九 | 機動部隊として水曲島転進、警備戦斗参加 |
| 二〇、一二、一八 | トラック島夏島出港 |
| 二九 | 浦賀上陸 |
| 三〇 | 部隊解散、復員 |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 編成装備 |
| | 九五式軽戦一六輌（内三輌は予備車） |
| | 自動貨車　五輌　軽修理車　二輌　乗用車　一輌 |

二〇外



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | |
|---|---|
| | 指揮班　乗用車一　一小隊、二小隊、三小隊、四小隊（各小隊三輌）<br>五小隊（自動貨車五、軽修理車二）<br>指揮隷属関係<br>才五十二師団長中将直轄 |
| 一九、二、一七 | 搬送（本隊）の途中、敵爆撃及び爆雷を受け全車輌沈没、<br>トラック在島間　一小隊、二小隊（各四七機動砲二、重機関銃八）<br>三小隊（各三七機砲二、重機関砲四） |
| 一九、九、 | 指揮班　全員小銃揚業<br>水旺島の装備増強の為転進し、伊豫院少将の隷下に入り終戦<br>西部水旺島には二小隊、四小隊<br>北部水旺島には隊本部、一小隊、三小隊 |
| 一九、二、一七<br>一八 | 参加せる主要なる作戦（警備、戦斗、行軍、輸送）<br>才一次トラック島附近戦斗<br>先遣隊は春島を守備、本戦斗に参加<br>本隊はエンターピ沖に於て対海対空戦斗、<br>以下トラック島附近全戦斗に参加す。<br>（七次戦斗までと記載しているが不明） |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 二〇、二、二八 | 死傷損耗<br>先遣隊　なし<br>本隊　死者一三名　負傷者七名、兵器、弾薬、食糧、海没<br>敵奇襲の為爆雷により兵一名死亡<br>補給<br>才一次戦斗后トラック島に上陸し、前記の通り編正を整へ、約三ヶ月の食糧を受領したが以後の物資の補給は殆んどない。<br>衛生<br>衛生に注意し兵の疫病防止につとめたが、アミーバ赤痢、デング熱等の予防が困難であり、薬品も不充分の為相当の苦痛を生じた。<br>戦斗の切れ間をみて、八方消毒等も徹底が出来た。<br>終戦より帰還迄の行動<br>食糧不足の為、依然現地自活作業へ甘しよ、タビオカ、蔬菜、煙草の栽培及び魚獲）を続行し、日課として兵器の完全手入を為し、一定の関処に集積して負税せしめた。一方指揮班をして島民の治安に出らしめた。<br>米軍ＬＳＴに乗船 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | | |
|---|---|---|
| 二九 | 浦賀に上陸 | |
| 三〇 | 命令に依り部隊解散 | |
| | 部隊長氏名 | |
| 自一八、二、一〇 至一九、三、一八 | 陸軍大尉　上野後男 | |
| 自一九、三、一八 至二〇、一二、三〇 | 陸軍中尉　大窪与作 | |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 歩兵百七連隊部隊略歴

（柏才四大五五部隊）

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| | 歩兵七を基本として金沢の山砲一ヶ大隊、工兵一ヶ中隊を併合して軍支隊の名称の元に連合艦隊の指揮の下に入り才五十二師団「トラック」島進出まで同艦隊の指揮に入り「ポナペ」「ミレー」「クサイ」島に分散守備につく。 |
| | 編成地　金沢 |
| 昭一八、九 | 編成（不正確） |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| 一九、一、? | 同右編成 |
| | 途中に於て編成換あり。 |
| | 戦斗　一ヶ中隊、直轄砲中隊、速射中隊 |
| | 配属なりたるも同部隊は「ポナペ」島にあり何れより来たりたる部隊か不明（多分、関東隊より）　ポナペ島の担当が極めて軽微なり。全員で約百名内外。 |
| | 参加せる主要なる作戦（警備、戦斗、行軍、輸送） |





国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

庫中日記は詳細に記入し、終戦後、主なる作戦は「ミレー」「クサイ」「ポナペ」の守備、「クサイ」「ミレー」島は各々千名内外、

終戦より帰還迄の行動

二〇、一〇、末　直ちに米海軍進出、同島「クサイ」を占領、

二、　「クサイ島」

一〇中旬　「ポナペ」「ミレー島」　病院船及LSTにて浦賀上陸



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 歩兵第一〇七連隊砲兵大隊部隊略歴

（柏第四六六〇部隊）

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 昭一六、九、二 | 第五十二師団歩兵第百七連隊動員下令 |
| 九、九 | 動員完結 |
| 一〇、一四 | 南洋諸島派遣の為宇品港出発 |
| 一〇、二三 | ポナペ島上陸 |
| 一一、二六 | クエゼリン寄港 |
| 一一、二八 | 歩兵第二百二十二連隊に配属、同日歩兵第百二十二連隊長の指揮下に入る。 |
| 一二、一 | クエゼリン港出港 |
| 一二、二 | 「ミレー」島着、同日上陸 |
| 一二、九 | 編成改正に依り歩兵第一〇七連隊砲兵隊と改称 |
| 自一八、一二 至一八、一二、三一 | 第二次南洋作戦マーシャル群島警備に従事 |
| 自一九、一、一 至一九、三、九 | マーシャル諸島戦に参加 |
| 一九、三、一〇 | 第三十一軍司令官の隷下に入る |





国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | |
|---|---|
| 自一九、三、一〇 至八、三五 | マーシャル諸島「ミレー」島守備に従事 |
| 自二〇、八、二六 至一〇、七 | 待命向勤務に従事 |
| 二〇、九、二九 | 内地帰還の為「ミレー」島出帆 |
| 一〇、七 | 浦賀港着 |
| 八 | 同港上陸、復員第一日 |
| 一〇 | 復員完結 |
| | 編成地　石川県金沢市 |
| 昭一八、九、九 | 編成 |
| | 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 |
| | 歩兵一ケ中隊四門編成（山砲）　大隊は三ケ中隊に大隊後列を属す |
| | 部隊略歴の概要欄に記載しある通り |
| | 参加せる主要作戦（警備、戦斗、行軍、輸送） |
| | 部隊略歴の概要欄に記載しある通り |
| | 死傷損耗 |
| | 大隊は「ミレー」島に到る際「ポナペ」港に大隊後列の外一ケ中隊と他の二ケ中隊、即ち八、九中隊より一九四名編成の内約二十名残置し、結局「ミレー」島に上陸せし兵力は約四百四名なり。その内、戦死者二二九名、後陣者 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| 年月日 | 概要 |
| --- | --- |
| 自昭二〇、一〇、八<br>至昭二〇、一〇、二〇 | 五名、抑留者一名なり<br>終戦より帰還迄の行動<br>部隊恩賞の概要欄に記載した外<br>所要人員を以て復員業務に従事す<br>部隊の経歴中特異と認めらるる事項、代部隊長官氏名<br>特記事なし。 |



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp